

# チュールハップ 新聞 第1号

## 「運命的な出会い」が導く波乱の物語

あなたは「運命的な出会い」を信じるだろうか？ また、「運命的な出会い」をしたことがあるだろうか？

ドラマや映画で男女が「運命的な出会い」を果すことは珍しくない。だが実際に「運命的な」とまで形容できるような、劇的な出会いを経験したことのある人はそう多くはないだろう。

ある夜、絵を描いている最中に天使のような少女のイメージを幻視した仲上眞一郎。次の日は彼は学校で、昨晚見たイメージにそっくりな少女・石動乃絵と出会う。

偶然というにはあまりに出来すぎた「運命的な」出会い。想像の中の女の子との出会いに、眞一郎の胸はさぞや高鳴ったことだろう。その感動と驚きは、黄金色に輝く木漏れ日に彩られた二人の出会いのシーンの美しさによく表れている。

彼女は校内でも有名な変わり者だったが、それさえもこの運命的な出会いの印象を強めている。突拍子もない言動をする乃絵は、絵本作家を目指す夢見がちな少年にとって、さぞや神秘的に映ったことだろう。そして涙を誰かにあげてしまったという乃絵の秘密を知った眞一郎は、どんな彼女に惹かれていく。

ただ眞一郎の乃絵に対する気持ちは、今のところ恋愛感情というよりも、好奇心とか憧れであるように思う。眞一郎が乃絵に近づくのは、(彼にとって)幻想的な存在である彼女が何を考えたいのか、どう振る舞うのか見たいという気持ちは強いのではないだろうか。眞一郎にとって乃絵は、恋愛という生々しい感情を抱くには不思議すぎる存在なのかもしれない。

だがそんな眞二郎の思いとは裏腹に、二人の関係は周囲に思わぬ波紋を起こしていく。

眞一郎と乃絵の関係に最初に気づいたのは、湯浅比呂美だ。かつては眞一郎と親しかった比呂美だが、今は距離をおいているようで彼との会話はほとんどない。

ところが眞一郎と乃絵が親しくなるにつれて、比呂美の言動に変化が生じてくる。これまで面識がなかったはずの乃絵と「友達になりたい」といって接触しようとするのだ。しかしその言葉とは裏腹に「乃絵が木に登って通りかかる男の子をナンパしている」と眞一郎に嘘を教えたり、乃絵が敢えて作らなかつた雷轟丸の墓を勝手に作つたりと、比呂美の言動はおよそ友好的

なものではない。そこには眞一郎と親しくしている乃絵への嫉妬が透けて見える。比呂美自身は否定しているが、彼女の行動の突飛さを見るに、比呂美の眞一郎に対する気持ちは思いのほか強かつたようだ。

そんな比呂美の気持ちは、安藤愛子に飛び火する。一話の眞一郎とのやり取りから垣間見える彼女の切ない表情を見ればわかるように、愛子は眞一郎に単なる幼なじみ以上の感情を抱いている。これまではその感情を表に出すことはなかったが、比呂美の眞一郎に対する気持ちを知って、想いが再燃しはじめたらしい。野伏三代吉と付き合っている身でありながら眞一郎への想いを捨てきれない愛子のような女の子は、男子の目から見れば腑に落ちな

いのかも知れない。だが、裏返せばそれだけ眞一郎のことが好きだという表れともいえる。

三人の可愛い女の子からこうまで思われる眞一郎はまったくうらやましい限りだが、残念ながら当人は彼女たちの思いには毛ほども気づいていない。これからは間違いなく波乱の展開が待っていることだろう。彼らの恋の行方はどうなるのだろうか？ 個人的には健気に愛子のことを思っている三代吉のことが気になるのだが…。

（文：田辺心太）